

水質汚濁防止法(排水基準)

・排水基準…排水基準を定める省令(S.46総令35号)

・検定方法…排水基準を定める省令の規定に基づく環境大臣が定める排水基準に係る検定方法(S.49環告64号)

本基準はすべての公共用水域に排出される水に適用される(一律排水基準)

公共用水域:河川、湖沼、港湾、沿岸海域、公共溝渠、かんがい用水路など

特定事業場:食品、化学等の各種製造業、水産農畜産等の施設、飲食店、旅館、下水道終末処理施設等(一般家庭、小規模店舗等は除外)

有害物質関係項目(すべての特定事業場に適用)

(税抜き額)

項目名称 (略称)	基準値	検定方法	単価料金 (円)
1 カドミウム及びその化合物 (Cd)	0.1 mg/L	JIS K 0102 55.3(ICP発光分光法) JIS K 0102 55.4(ICP質量分析法) JIS K 0102 55.1(フレイム原子吸光法)	4,000
2 シアン化合物 (CN)	1 mg/L	JIS K 0102 38.1.2及び38.2(ピリジニヒドロロン吸光法)	5,000
3 有機燐化合物(Org-P) (パラチオン、メチルパラチオン、メチルジト、及びEPNに限る)	1 mg/L	S49.環告64号付表1(GC)	18,000
4 鉛及びその化合物 (Pb)	0.1 mg/L	JIS K 0102 54.3(ICP-発光分光法) JIS K 0102 54.4(ICP質量分析法) JIS K 0102 54.1(フレイム原子吸光法)	4,000
5 六価クロム化合物 (CrVI)	0.5 mg/L	JIS K 0102 65.2.1(ジフェニルカルバジト吸光法) 妨害物質共存時 JIS K 0102 65備考15.b)及びJIS 65.1.4(ICP発光分光法) JIS K 0102 65備考15.b)及びJIS 65.1.5(ICP質量分析法) JIS K 0102 65備考15.b)及びJIS 65.1.1(ジフェニルカルバジト吸光法) JIS K 0102 65備考15.b)及びJIS 65.1.2(フレイム原子吸光法)	4,000
6 砒素及びその化合物 (As)	0.1 mg/L	JIS K 0102 61.2(水素化物発生原子吸光法) JIS K 0102 61.1(DDTC-Ag吸光法)	4,000
7 水銀及びアルキル水銀 その他の水銀化合物(Hg)	0.005 mg/L	S.46 環告59号付表1(還元気化原子吸光法)	4,000
8 アルキル水銀化合物 (R-Hg)	検出されないこと	S.46 環告59号付表2(GC)	16,000
9 ホリ塩化ビフェニル (PCB)	0.003 mg/L	S.46 環告59号付表3(GC)	21,000
10 トリクロロエチレン (トリレン)	0.3 mg/L	JIS K 0125 5.2(HS-GC-MS) JIS K 0125 5.1(PT-GC-MS)	P+5,000
11 テトラクロロエチレン (パーレン)	0.1 mg/L	JIS K 0125 5.5(溶媒抽出-GC-ECD)	P+5,000
12 ジクロロメタン	0.2 mg/L	JIS K 0125 5.2(HS-GC-MS) JIS K 0125 5.1(PT-GC-MS)	P+5,000
13 四塩化炭素	0.02 mg/L	JIS K 0125 5.2(HS-GC-MS) JIS K 0125 5.1(PT-GC-MS) JIS K 0125 5.5(溶媒抽出-GC-ECD)	P+5,000
14 1,2-ジクロロエタン	0.04 mg/L		P+5,000
15 1,1-ジクロロエチレン	0.2 mg/L	JIS K 0125 5.2(HS-GC-MS) JIS K 0125 5.1(PT-GC-MS)	P+5,000
16 シス-1,2-ジクロロエチレン	0.4 mg/L		P+5,000
17 1,1,1-トリクロロエタン	3 mg/L	JIS K 0125 5.2(HS-GC-MS) JIS K 0125 5.1(PT-GC-MS)	P+5,000
18 1,1,2-トリクロロエタン	0.06 mg/L	JIS K 0125 5.5(溶媒抽出-GC-ECD)	P+5,000
19 1,3-ジクロロプロペン	0.02 mg/L	JIS K 0125 5.2(HS-GC-MS) JIS K 0125 5.1(PT-GC-MS)	P+10,000
20 チウラム	0.06 mg/L	S.46 環告59号付表4(固相抽出-HPLC)	25,000
21 シマジン	0.03 mg/L	S.46 環告59号付表5の第2(固相抽出 GC) S.46 環告59号付表5の第2(溶媒抽出 GC)	T+15,000
22 チオベンカルブ	0.2 mg/L	S.46 環告59号付表5の第1(固相抽出 GC-MS) S.46 環告59号付表5の第1(溶媒抽出 GC-MS)	T+10,000
23 ヘンセン	0.1 mg/L	JIS K 0125 5.2(HS-GC-MS) JIS K 0125 5.1(PT-GC-MS)	P+5,000
24 セレン及びその化合物	0.1 mg/L	JIS K 0102 67.2(水素化物発生原子吸光法)	10,000
25 ほう素及びその化合物	10 mg/L 230 mg/L (その他) (海域)	JIS K 0102 47.3(ICP発光分光分析法)	5,500
26 ふっ素及びその化合物	8 mg/L 15 mg/L (その他) (海域)	JIS K 0102 34.2(イオン電極法) JIS K 0102 34.1(ランタンアリザリコンプレキソン吸光光度法)	5,000
27 アンモニア、アンモニウム化合物 亜硝酸化合物及び 硝酸化合物	100 mg/L	JIS K 0102 42.2(インドフェノール法) JIS K 0102 42.3(中和滴定法) JIS K 0102 43.2.1(還元蒸留インドフェノール法) JIS K 0102 42.5(IC法)	8,000

この表は弊財団で試験可能な測定方法のみ記載しております。告示では他の方法も採用されている項目がございます。

基本料金P(PT-GC-MS) ; 30,000円

基本料金T(農業) ; 10,000円

生活環境関係項目(排出水量50m<sup>3</sup>/日以上の特定期間適用)

(税抜き額)

	項目名称 (略称)	基準値	検定方法	料金 (円)
1	水素イオン濃度 (pH)	5.8~8.6(湖沼、河川) 5.0~9.0(海域)	JIS K 0102 12.1(ガラス電極法)	1,500
2	生物化学的酸素要求量 (BOD) *1	160 mg/L(120 mg/L) ( )内日間平均	JIS K 0102 21(一般希釈法)及び JIS K 0102 32.3(隔膜電極法)	5,500
3	化学的酸素要求量 (COD) *2	160 mg/L(120 mg/L) ( )内日間平均	JIS K 0102 17(100°C 過マンガン酸カリウム法)	4,000
4	浮遊物質 (SS)	200 mg/L(150 mg/L) ( )内日間平均	S46.環告59号付表8(GFP法)	2,500
5	ノルマルヘキサン抽出物質含有量 (n-ヘキ抽出物) *3	鉱油 5 mg/L 動植物油 30 mg/L	S49.環告64号付表4(振とう抽出法)	4,500
6	フェノール類含有量 (フェノール類)	5 mg/L	JIS K 0102 28.1(4-アミノアンチピリン吸光法)	8,000
7	銅含有量 (Cu)	3 mg/L	JIS K 0102 52.4(ICP発光分光法) JIS K 0102 52.5(ICP質量分析法) JIS K 0102 52.2(フレイム原子吸光法)	4,000
8	亜鉛含有量 *4 (Zn)	2 mg/L	JIS K 0102 53.3(ICP発光分光法) JIS K 0102 53.4(ICP質量分析法) JIS K 0102 53.1(フレイム原子吸光法)	4,000
9	溶解性鉄含有量 (Sol-Fe)	10 mg/L	JIS K 0102 57.4(ICP発光分光法) JIS K 0102 57.2(フレイム原子吸光法)	4,000
10	溶解性マンガン含有量 (Sol-Mn)	10 mg/L	JIS K 0102 56.4(ICP発光分光法) JIS K 0102 56.5(ICP質量分析法) JIS K 0102 56.2(フレイム原子吸光法)	4,000
11	クロム含有量 (Cr)	2 mg/L	JIS K 0102 65.2.4(ICP発光分光法) JIS K 0102 65.2.5(ICP質量分析法) JIS K 0102 65.2.1(ジフェニルカルバジド吸光法) JIS K 0102 65.2.2(フレイム原子吸光法)	4,000
12	大腸菌群数 (EC群数)	3000個/cm <sup>3</sup> 日間平均	S37.厚.建令1号別表第1(平板培養法)	5,000
13	窒素含有量 *5 (N)	120 mg/L(60 mg/L) ( )内日間平均	JIS K 0102 45.1(総和法) JIS K 0102 45.2(紫外線吸光度法)	7,000
14	リン含有量 *5 (P)	16 mg/L(8 mg/L) ( )内日間平均	JIS K 0102 46.3.3(硝酸硫酸分解 モリブデン青吸光法)	4,000

\*1 海域、湖沼以外の公共用水域に排出される水に限ります。

\*2 海域、湖沼に排出される水に限ります。

\*3 鉱油および動植物油ごとに基準値がございますが、規定の検定方法は、分別測定ではなく総量測定となっております。但し、鉱油と動植物油の分別測定をご希望の場合には、JIS法にて対応可能です。(料金12,000円)

\*4 排水基準を定める省令においては、改正後の亜鉛含有量の排水基準に対応することが著しく困難と認められる10業種(告示参照)に属する特定事業場に対して、施行後5年間に限った亜鉛含有量の暫定排水基準(5 mg/L)を設定しており

\*5 窒素又はリンが湖沼植物プランクトン及び海洋植物プランクトンの著しい増殖をもたらすおそれがあると環境大臣が定める湖沼、海域及びこれらに流入する公共用水域に排出される水に限ります。

詳細は省令・告示をご参照ください。

この表は弊財団で試験可能な測定方法のみ記載しております。告示では他の方法も採用されている項目がございます。